



Charitable Trust

ニュースレター



目次



1. 議長挨拶
2. 当基金の紹介
3. 当基金の目標
4. 提案募集
5. 覚書への署名
6. 団体に寄り添う
7. 運営委員会



議長挨拶



山下 悟郎



パートナーの皆様へ

このたび「MOLチャリタブルトラスト」（以下、「当基金」）のニュースレターが創刊されました。今後4カ月に一度のペースでニュースレターを発行し、皆様へのモーリシャスでの当基金に関する情報や取り組みなどのアップデートを行ってまいります。

この創刊号では、当基金の概要、目標、そして2021年6月設立以来行ってきた取り組みを中心に掲載しています。

商船三井は2020年、モーリシャスの地域社会への支援と環境保全への貢献につき意思決定し、これを受け、取り組みの促進、効率的運営のため当基金が設立されました。私たちは長期にわたり、目的達成のため、基金としての活動、および支援対象プロジェクトが無事完了するよう努めていきます。

この美しい島での我々の活動が、多くの恵まれない人々の生活の向上に、そして世界でも珍しい種と生態系の保全に大きく貢献するものと確信しています。この島に着任し、当基金が設立されて以来、私たちは慈善事業や環境保護に携わる多くの熱心なモーリシャスの人々と協業する機会に恵まれました。私たちにインスピレーションをもたらすひたむきさを持つ彼らと共に仕事ができることは光栄なことです。

このニュースレターの執筆時点で、100件以上の応募のあった第一次募集は、支援対象プロジェクトの採択が完了しています。詳細については次ページ以降をご覧ください。

質の高い数多くのプロジェクトが寄せられたことから、採択は非常に難航しました。そのため、当初予定よりも多くのプロジェクトに資金を提供することとしました。

このことは、私どもの目標達成への決意とモーリシャスへの取り組みを反映したものだと考えています。皆様にこのニュースレターをご覧いただけることを願うとともに、さらに良いニュースをお伝えできたらと考えています。

山下 悟郎
議長



議長挨拶 > [当基金の紹介](#) > [当基金の目標](#) > [提案募集](#) > [覚書への署名](#) > [団体に寄り添う](#) > [運営委員会](#)

Click to Navigate



当基金の紹介



「MOLチャリタブルトラスト」(当基金)は、日本の総合海運会社であり海運業界の多くの分野においてマーケットリーダーである商船三井株式会社(MOL; Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.)の取り組みの一つとして、2020年、モーリシャスに設立されました。

商船三井は、モーリシャスの人々を支援し地域の環境保護に貢献するために、多くの専門家チームを派遣し、弱い立場にある人々の支援や生態系の回復に取り組んでいます。2020年9月には、モーリシャスをさらに支援するため、8億円の拠出を決定しました。

2020年10月に、モーリシャスでの協調体制を拡充すべく、「MOL (Mauritius) Ltd.」を設立し、さらには、この目的の達成により資するものとして、2021年6月21日に当基金が設立されました。なお、MOL (Mauritius) Ltd. はモーリシャスにおける潜在的な投資・事業機会を模索することを使命として活動を続けています。

当基金は、商船三井が拠出する資金の一部を原資としており、その資金総額は約3億円となります。これと並行して、商船三井は日本国内にもう一つの基金「公益信託 商船三井モーリシャス自然環境回復保全・国際協力基金」を設立しており、その資金総額は5億円となります。

両基金は、社会的弱者の支援と、自然の回復、保全、保護を目的としたプロジェクトを支援することを目的としています。

日本国内の基金が大型プロジェクトへの支援を目的としているのに対し、当基金は、地域に根ざしたプロジェクトへの支援を目的としています。当基金は、現地の運営委員会(7名、うち3名はモーリシャス人)が運営し、今後6年間で年間約5,000万円の資金を提供する予定です。





当基金の目標

モーリシャスにおける「MOLチャリタブルトラスト」の
使命は10の優先目標から構成されています。

それぞれの目標は、国連が定めた人類の未来のための
「持続可能な開発目標」（SDGs）の
ひとつに対応しています。



当基金の目標

1 マングローブ林の 保全と開発

マングローブは、沿岸の自然環境の保全に重要な役割を担っています。浸食の進行を防ぎ、ラグーンに生息する多くの生物種の苗床となるものです。当基金の目標は、既存のマングローブ林を保護し、新しいマングローブ林を植えることです。



目標 1 4
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

2 サンゴ礁の保全と 開発

モーリシャスのサンゴ礁地帯は、全長約300kmに及ぶ世界最大級のもので、しかしながら地球温暖化、汚染、外来種など、多くの脅威に晒されています。当基金では、この希少な環境を回復するためのプロジェクトを支援しています。



目標 1 4
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

3 野鳥、渡り鳥、 希少鳥類の保護

モーリシャスには、モーリシャスチョウゲンボウ、モーリシャスコウカンチョウ、ミドリコウモリ、マダラコウモリなど、複数の絶滅危惧種が生息しています。当基金では、これらの種の保護プログラムを支援しています。



目標 1 5
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

4 文化財の保全と 修復

モーリシャスは、豊かな歴史と文化的多様性を持つ文化の宝庫です。島のいたるところで、多くの貴重な文化遺産を目にすることができます。これらの保全は、観光誘致の役割をも担っています。



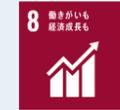
目標 1 1
包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する



当基金の目標

5 漁業と観光業の経済発展

モーリシャスの主要産業は、漁業と観光業です。モーリシャスの多くの世帯がこれら産業に依存していますが、近年、持続可能性が危ぶまれています。当基金では、教育訓練、環境調査、潜在的機会、またはインフラの構築を通じて、これらの産業を振興させるプログラムを支援しています。



目標 8
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

6 エコロジー、エコツーリズム、環境保護に関する啓蒙

エコロジーは、特定の脆弱な生態系の保全に不可欠だけでなく、新たな現代的経済分野の開発を可能にします。エコロジーへの支援プログラムを通じて、当基金は、モーリシャスの未来づくりに貢献しています。



目標 11
包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する

7 社会福祉と教育を通じた地域社会の活性化

脆弱な地域社会への教育や支援は、当基金の最も重要な目的の一つです。モーリシャスには貧困層も多く、その多くは海を生活基盤としています。教育・支援を通じて、モーリシャスの人々により良い未来を提供することが当基金の目標です。



目標 1
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる



目標 4
すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する

8 再生可能エネルギー関連研究開発

商船三井は数年前から、世界最大の燃料消費者である海運業界のために、再生可能燃料の開発に取り組んでいます。モーリシャスでも同様のプロジェクトを支援することで、環境にやさしい社会づくりの一助になりたいと考えています。



目標 7
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する



当基金の目標

9 災害後の 人道的支援

自然災害や人為的災害は、最も脆弱な地域社会に特に被害をもたらします。だからこそ、災害発生時には迅速かつ組織的な支援が必要です。当基金では、この人道的活動を促進し、効率化するための広範なサポートネットワークを構築していきます。



目標 1
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

10 上記の取り組みを サポートするための 関連インフラ開発

目標の達成を可能にするインフラがあれば、それは強みになります。当基金では、すでにいくつかのインフラプロジェクトを支援しており、今後もモーリシャスでの使命を達成するために、多大なリソースを投入していきます。



目標 1 1
包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する





提案募集



提案募集

2020年9月、当基金は、モーリシャスで第一回目の提案の募集を発表しました。この募集では、1年間で約20のプロジェクトに総額約100万ルピーの資金を提供することを想定しておりました。

応募件数は100件以上におよび、そのうちの50%超が南東地域からのものでした。

採択基準は以下のとおりです。



初年度は南東地域のプロジェクトを優先



プロジェクトの目的が、当基金の目的に合致していること



プロジェクトの実現可能性



主催団体のプロジェクト遂行能力と財政管理能力

採択過程で、当基金のチームは、以下を目的とした国際組織であるI61財団の協力を受けました

“
貧困の影響下にある人々に希望を与え、コミュニティの回復、再生、再建のためのプロジェクトを促進することによって、社会的不平等と戦うこと
”

当基金の目的は、透明性のある方法で優れたプロジェクトを採択することでした。

まず、最も関連性の高いプロジェクトを選定し、その後、採択候補に残ったNGOの現地視察が行われました。

提案されたプロジェクトの質を考慮し、運営委員会は、資金を提供するプロジェクトの数を20から26に、資金提供の総額を2000万ルピーから2450万ルピーに拡大することを決定しました。

次回の提案募集は2022年10月に行われる予定です。



提案募集

以下は、今年度の採択プロジェクトです

1.Action Familiale

マエブール近郊に住む若者や女性を対象とした生活技能訓練（Reve Twa Famプログラム）と、Ville Noireの恵まれない家庭に6ヶ月間の経済支援

2.Association for Sustainable Development

南東地域の6つの村の沿岸地域に対して、環境意識の向上、沿岸保護のための技能訓練、エコグッズや農産物の生産、家庭菜園や野菜畑の開拓、小規模事業の立ち上げなどの支援

3.Biodiversity Preservation

環境問題や重要な生態学的原因に対する認識向上を目的とする、学生向けエコリテラシーツールキットの開発

4.Bonheur Associé aux Enfants

シテ・ボーヴァロンの恵まれない家庭の子どもたち65人に毎日昼食を提供

5.Caritas île Maurice

脆弱な地域社会向けのスキル開発プログラム（識字、ライフスキル、パン作り、料理）

6.Collège de Lorette de Mahébourg

経済的に困難な状況にある家庭の大学生を支援するためのプロジェクト（食事の提供、教材の寄付、個人レッスン・修学旅行への資金提供）

7.Development Practitioners in Network

南東地域の8つの村の不安定な状況にある女性たちが生活を改善できるよう、トレーニング、支援、社会進出を支援

8.EcoMode Society

「WAKASHIO」号座礁事故跡に植えるサンゴを輸送するための専用車両を購入

9.Eco-Sud

食料自給を促進するための、南東地域の脆弱な地域社会のための農業生態系システムの開発

10.Falcon Citizen League

南部と東部地域の若者に同行し、家庭菜園や野菜畑の栽培に関するトレーニングを実施。青年スポーツ省と協力して、同地域にユースクラブを開設する予定

11.Fondation Ressource et Nature (FORENA)

南東地域の女性へのマングローブやその他の有用種並びに絶滅危惧種の植物の栽培とその実施に関するトレーニング

12.La Chaux Mahébourg Academy Football Club

シテ・ラ・ショーの若いサッカー選手のためのスポーツ用品とコーチ雇用への資金援助



提案募集

以下は、今年度の採択プロジェクトです

13. Mahébourg Espoir

マエブール・エスポワール農業学校で研修を受けた若者のための農業プロジェクト

14. Marine Megafauna Conservation Organisation

南部地域の養殖場またはイルカ&ホエールウォッチングのための商業ダイバー50人へのトレーニング

15. Mauriwood Film Industry Artists Association

「WAKASHIO」号座礁事故後の生態系保全と再生をテーマにしたドキュメンタリー「島の自然再生」を制作

16. Mission Verte

南東地域における廃棄物の管理とリサイクルに関する意識向上：子どもたちとの教育セッション、啓発ビデオの制作、地域に4つのリサイクルボックスを設置、また、Precious Plasticと協力し、自転車を使用しペットボトルなどを回収する専任者“グリーンアンバサダー”を設置

17. Mouvement Bien-Être de Cité La Chaux

シテ・ラ・ショーの漁師が外洋で漁業ができるよう、2隻のボートを取得

18. Ocean Connect

マングローブの森づくりを通してマングローブと貝の養殖場の、地域社会の再生

19. Pointe d'Esny Sanctuary Foundation/Reef Conservation

ポワント・デスニーとマエブールの地域社会の協力を得てイル・オ・エグレの周辺に「海洋ヴォランティア保護区」を設置

19. Pointe Jerome Sailing School and Club

恵まれない環境にある60人の子どもたちで構成されるクラブの宿泊施設・設備用コンテナを設置

21. Precious Plastic Mauritius

ポワント・ジェロームに準工業用リサイクルプラットフォームを設置

22. RESPECT

オンラインプラットフォーム「KIBAZ」で受益者が生産した野菜の販売を支援するとともに、有機農法による温室野菜生産のトレーニングを実施

23. Ti Rayons Soleil

マエブール地域のシテ・ラ・ショーの小学校「Les Tisserins de Mahébourg」の改修工事

24. Vallée de Ferney Conservation Trust

ファアーニー・バレーの固有種や絶滅危惧種の植物の絶滅リスクを低減

25. Youth with Disabilities Empowerment Platform

障がいを持つ若者を対象に、果物や野菜、植物を栽培するための研修を実施

26. Zenes San Frontier

音楽の道を志す若者のための音楽学校の設立





覚書への署名



覚書への署名

当基金は、2021年12月10日にマエブールのレストラン「カレイ・マリオ」で式典を開催し、今年の助成対象に採択されたプロジェクトを発表しました。式典には、駐モーリシャス日本国特命全権大使の川口周一郎氏、モーリシャスに拠点を置く当基金の運営委員会のメンバー、当基金の助成対象NGOの代表者、「I61 Foundation」の代表者および報道関係者が出席しました。

式典では、各プロジェクトに係る覚書が、それぞれの団体の代表者によって署名されました。式典終了後、昼食が振る舞われました。以下は、その時の写真です。



議長挨拶 > 当基金の紹介 > 当基金の目標 > 提案募集 > 覚書への署名 > 団体に寄り添う > 運営委員会

[Click to Navigate](#)





団体に寄り添う

運営委員会



団体に寄り添う

当基金は、資金を提供するための機関ではありません。当基金の共通の目標を達成し、モーリシャスをすべての人にとって住みよい場所にするためには、採択された団体がプロジェクトを遂行する際に継続的に寄り添うことが最も重要であると考えているからです。

提案の募集開始前から、ソーシャルワーカーと一緒に現地を訪れ、現場の実態を把握し、地域や生態系のニーズを把握しました。また、2020年7月から商船三井がモーリシャスに展開している科学者等の専門家からの報告書も重視しています。

来年度も、当基金では、この現地調査を継続し、円滑に進めることが重要だと考えています。慈善プロジェクトや環境プロジェクトは、常に障害や困難に直面するものであり、当基金の役割は、受益者を可能な限り支援することだと考えています。

そのため、当基金では、定期的に現場を訪問し、来年度も必要に応じてプロジェクトマネージャーを全面的にサポートする予定です。



議長挨拶 > 当基金の紹介 > 当基金の目標 > 提案募集 > 覚書への署名 > **団体に寄り添う** > 運営委員会

Click to Navigate





山下 悟郎
(議長)

山下悟郎氏は成城大学法学部を卒業後、1993年に商船三井グループに入社、約30年のキャリアを有します。

山下氏は原油や自動車輸送など複数の領域で営業経験を積みました。

また、自動車輸送の専門家として調整や投資を管理してきました。欧州や南米など海外勤務も経験しました。

「WAKASHIO」号の座礁事故を受け、2020年8月、商船三井グループの現地駐在員としてモーリシャスに赴任。現在、山下氏は「MOL (Mauritius) Ltd」の代表、当基金の代表を務めています。



Marc Dalais
(委員)

マルク・ダレ氏は、2009年に共同設立したCelero Groupの会長です。Celeroはモーリシャスとマダガスカルで事業を展開する物流・海運代理店グループです。

モーリシャス出身のダレ氏は、南アフリカで大学を卒業後、海運業でキャリアをスタートさせました。

その後、パリの大手国際物流グループに勤務し、モーリシャスの上場コングロマリットでロジスティクス・海運・航空部門のゼネラル・マネジャーを務めました。また、モーリシャスのフリーポート事業のパイオニアである企業やモーリシャス輸出業者協会 (Mauritius Exporters Association) など、さまざまな業界団体や理事会でも活躍しています。

現在は、20カ国で活動する上場コングロマリットであるCIELの役員を務めています。また、社会正義と教育にも熱心です。Lighthouse(ライトハウス)小中学校と、新しい社会的企業であるThe Good Shopを設立したチャリタブルトラストの設立時の理事でもあります。





Dharmendra Ellayah

(委員)

ダルメンドラ・エラヤ氏は、警察、National Disaster Management Center (NDRRMC : 国家防災センター) で32年以上の長いキャリアを経て、災害リスク管理、気候変動、環境保護の分野で独立したコンサルタントとなりました。

Mauritius University of Technology (モーリシャス工科大学) で行政管理学の修士号を、バンガロールのインド空軍で電子工学と電気通信学のディプロマを取得。バンガロールのインド空軍で電子通信のディプロマを取得。政府の災害リスク管理に関する法的、制度的、行政的、運営的な枠組みの構築に直接携わってきました。

慈善活動に熱心なエラヤ氏は、Association For People In Tears (APPEL)の創設者であり、The Good Shopの理事も務めています。



Dr Jimmy Harmon

(委員)

ジミー・ハーモン博士は現在、カトリック教育局副局長兼セカンダリー部門責任者。南アフリカのUniversity of Western Cape (西ケープ大学) で言語学の博士号を取得。研究テーマは、言語、歴史、記憶、アイデンティティの構築。2019年にモーリシャス政府によって設立された Intercontinental Slavery Museum (ISM), Mauritius LTDの理事会メンバーの一人である。

2011年から2019年にかけて、ハーモン博士は、植民地時代から今日までの奴隷制と年季奉公の遺産を調査するために2008年に政府が設立した「Truth and Justice Commission (真実と正義委員会)」の190の勧告の一つである「奴隷制博物館」設立の公的擁護に携わってきました。

2014年から2016年まで、ハーモン博士は、当時の芸術文化省の旗の下、アフリカ、マダガスカル、クレオール文化の振興を目的とした「Nelson Mandela Centre for African Culture」トラストファンドのディレクターも務めていました。



